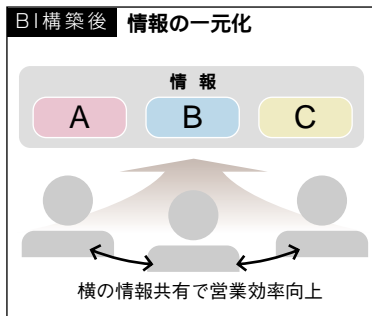
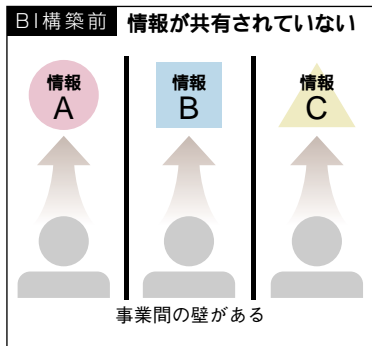


企業内データの一括把握で、 情報共有と効率アップをサポート

「当たり前のこと」に手を抜かない方針のエヌデーは、
ビジネスインテリジェンスにより真の業務プロセス改善を実現する。



企業では、さまざまな情報システムが稼働し、膨大なデータが蓄積されている。しかし、せっかく蓄積したデータは、既存システムごとに用意された定型的なデータ分析しかできないため、局面に応じた全体最適な決定を下すことが難しいのが現状である。各システムのデータを統合・分析するため、近年多くの企業で導入が進んでいる手法が、ビジネス・インテリジェンス(BI)だ。

BIシステムは得意とするSIベンダーは多いが、その中でも顧客満足度が高いと評判なのがエヌデー(NDD)だ。

「お客様の立場に立ってシステムを作る。そんなごく当たり前のことを真摯に取り組める体質とそれを実現する技術こそが、当社の最大の強みだと自負しています」(山田浩行NDD営業部長)

同社は独立系の中堅システムインテグレーター(SI)。系列の縛りがなかったため、ハード、ソフトの選択制限がなく、顧客ニーズに沿ったツールを選べる。また、中堅ならではのリーズナブルさと小回りの良さも魅力と言える。コスト削減を目的にBIツールの導入を決めた企業が、高価なBIツールを使いこなせないという事例をよく耳にするが、BIツール選定、要件定義から保守・運用、研修までを網羅するNDDのサービスは、そういった不安を払拭してくれる。

例えば、より多くの営業機会を得る方策を模索していた直販営業を主とする某出版会社へは、ウイングアークテクノロジーズ社のDISSEM EAでBIを導入。クライアント数が多いという環境を考慮し、パフォーマンスとサーバライセンスであることから同製品を選択した。また、クライアント数が増えてコスト増にならないようにするとともに、各事業部が独自にデータ化していた情報を含めて、本社や事業部ごとに散在していたデータを、アプレッソ社のDataSiderによってBIへ集約、視覚的に分析できるようにした。

その結果、経営者と全営業社員があらゆる営業フェーズの情報を共有できるようになり、営業活動の効率化に成功

した。

「BIは利用しながらシステムを発展させることが望ましいと考えています。システム構築に当たっては、お客様自身でもシステムを変更できるように、将来を見据えた拡張性にこだわりました。また、BIシステムに特化した当社独自の導入手順(システム構築プロセス)を適用し、短期間でシステムを導入することで、BIの命題とも言えるコスト削減を実現できたと思っています」(富岡大二郎NDD公益システム事業部Webソリューション係長)

世界同時不況の嵐が吹き荒れる中、生き残りを懸けて攻めの経営を推進するにせよ、生産性向上とコスト削減をより徹底するにせよ、そのためには社内に蓄積した膨大なデータの活用が前提となる。21世紀を生きる企業にとって、やみくもなBI導入よりも、良きパートナーの選択のほうが必要な要素なのかもしれない。